

香港

景気は緩やかに持ち直し

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

研究員 松田 健太郎

E-mail : matsuda.kentaro@jri.co.jp

緩やかな回復基調が持続

2016年4~6月期の実質GDP成長率は、前年同期比(以下同じ)+1.7%と、1~3月期(+0.8%)から持ち直した(右上図)。民間消費が減速した一方、前期まで減少が続いていた総資本形成がプラスに転じたほか、輸出が中国向けの電気機械などの持ち直しを受けて前年同期を上回った。

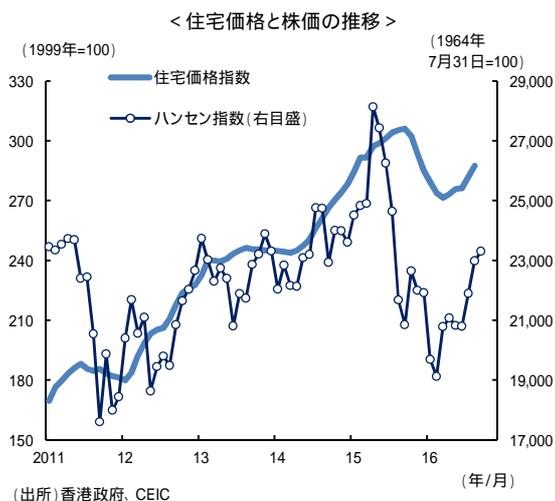
足元の消費動向をみると、8月の小売売上高は前年同月比(以下同じ)10.5%と、減少が持続している。品目別では、中国人来訪者の減少などを受けて宝飾品が26.6%と大きく低迷している。もっとも、15年後半以降に下落した住宅価格や株価が本年初頭に底を打ち、足元では再び上昇基調に転じている(右下図)。こうした状況を受けて、消費者信頼感指数も4~6月期を底に持ち直しており、消費の減少幅は徐々に縮小していくことが予想される。

一方、外需をみると、8月の輸出(香港ドル建て)は+0.8%と16カ月ぶりに増加した。輸出の5割を占める中国向けが+4.3%となったほか、韓国・台湾向けなどもプラスに転じており、16カ月連続で前年割れが続いていた輸出の底打ちが確認できる。加えて、昨年半ば以降、減少が続いていた中国本土からの来訪者数は、7月に前年を上回る水準となるなど回復に向かいつつあり、サービス輸出の持ち直しも期待される。

先行きを展望すると、景気は昨年半ば以降の減速から緩やかに持ち直す公算が大きい。もっとも、米国による年内の利上げが見込まれるなか、ドルペッグ制により米国の金融政策に追従せざるをえない香港でも政策金利の引き上げが予想される。これにより、株価や住宅価格などが反落に向かうリスクが根強く残るため、急速な回復は期待薄といえよう。

今後の議会運営には難しさ

9月4日に、立法会選挙が実施された。全議席数70のうち、与党である親政府派が40議席と過半数を確保する一方、汎民主派は26議席となり、結束すれば重要法案の成立を阻止できる3分の1の議席数を確保した。また、雨傘運動を主導した黄之鋒氏が結成した香港衆志が1議席、青年新政が2議席を獲得するなど、本土派と呼ばれる新たな勢力が台頭した。10月12日には、選挙後初の立法会が開催されたが、冒頭から宣誓拒否などの混乱が生じている。2017年3月に行政長官選挙を控えるなか、今後は議会運営が一段と難しくなることが予想される。



当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。